

にいぜろにいろく
「食支援フォーラム in 庄内2026」
庄内地域で活躍する食支援団体の紹介

南庄内・たべるを支援し隊

代表 ^{たぐち まこと} 田口 充 （鶴岡協立病院 言語聴覚士）

平成29年度から、南庄内地域において、在宅や施設入所者に対する栄養サポートチーム（地域一体型NST※）による支援のほか、関係職種や市民向けの研修会の開催などを行っている。

※地域一体型NSTとは

地域において、多職種（医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）で構成された栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：ニュートリションサポートチーム）が、患者に最適な栄養管理を提供するもの。

北庄内食援隊

隊長 ^{おおぬま ひろし} 大沼 寛 （酒田地区歯科医師会 大沼歯科医院 歯科医師）

令和2年度に結成され、令和4年度から本格的な取組みを開始。嚥下食に関する調理実習や市民向けの研修会のほか、多職種で食事場면을観察し、摂取状況から咀嚼能力・口腔機能・嚥下機能の評価を行い必要な支援に繋げている。令和5年度からは、「やわらかふえ Come×Come（カムカム）」という嚥下食の試食会とフレイル予防の情報提供を行うなど、多職種連携で食支援を行っている。

令和6年度には、酒田のラーメンを考える会と「やわとろ酒田のラーメン」（嚥下ラーメン）を共同開発した。

鶴岡食材を使った嚥下食を考える研究会

共同代表 ^{えんみ} 延味 ^{かつし} 克士 ^{たぐち まこと} 田口 充 ^{あだち かおり} 足達 香

鶴岡市内の料理人や医療専門職などで構成。“鶴岡で食事をするすべての人たちが、おいしい食事ができ楽しく暮らせること”を目指して、鶴岡の豊かな旬の食材を使い、「嚥下しやすい食事形態で外食を提供すること」を目標に、飲食店、温泉旅館等、医療専門職が多職種で連携を図りながら活動している。

過去の食支援フォーラムの展示コーナーの様子



嚥下機能に配慮した食品や素材などを扱うメーカー等から、ポスター展示やリーフレット等で情報提供いただいたほか、地域の大学等からポスターによる研究発表をしていただきました。今年度も同様のコーナーを設ける予定です。